

## 教育心理学教室教官の研究状況報告

### 研究経過報告 ——'93年秋～'94年夏——

小 嶋 秀 夫

#### 【歴史的・文化的発達研究】

日本発達心理学会第5回大会でのミニシンポジウム「文化・比較研究をめぐって——発達研究における方法論としての比較の検討——」に指定討論者として参加した(1994年3月, 仙台)。

この領域で, 英文の論文3篇(雑誌論文1と分担執筆の2つの章(内容: 子育て論の展開とその文化的・社会的・経済的情况; 子育て論の構成とコミュニケーション; 歴史的モデルと対話)が出版される予定であるが, この期間のうちには現れていない。

1994年9月17日には, Seminar on representational models of interpersonal relationshipsを学部で開いた。レーゲンスブルク大学からのKlaus E. GrossmannとKarin Grossmannに, 国内からの発表・参加者が加わった。その前にわれわれとGrossmann夫妻とで, 真に意味のある比較文化的発達研究の在り方について討論会をもった。また, 上記セミナーに間に合わなかったコンスタンツ大学のWolfgang Friedlmeierとは, 9月23日に討論の機会をもった。

#### 【発達の概念と発達論】

昨年(1993)の日本教育心理学会での遺伝学に関するシンポジウムでの提起の要旨が出ている: 発達心理学からの提言 教育心理学年報33集, 1994, 18-19.

英文雑誌(Culture and Psychology)のコメンタリー論文(比較のカテゴリーとしての形態と機能の問題)が来春に出版される予定である。

#### 【家族関係; 社会的相互作用・対人関係と発達】

青年が親となる過程 久世敏雄(編) 現代青年の心理と病理 (Pp. 95-108.) 福村出版 1994を書いた。また, 発達における重要な他者としてのメンター(mentor)の研究結果が松田 惺氏が中心になってまとめられた: 松田 惺・若井邦夫・小嶋秀夫 発達における重要な他者(メンター)との関わりの分析(1) 日米大学生の比較研究 愛知教育大学研究報告(教育科学), 1994, 43, 105-118.

#### 【テキスト・辞典等】

放送大学の講義(テレビ)のための印刷教材の1つの章を執筆した: 「発達心理学の歴史」(Pp. 166-179.) 大山 正(編)『心理学史』 放送大学教育振興会, 1994年3月。また次の辞典の項目を執筆した: 『社会心理学小辞典』(発達心理学ほか18項目) 有斐閣, 1994年10月。

#### 【その他】

市販誌にいくつかのエッセイ等が現れた。「親にとっての子どもの理解」 児童心理, 1994, 48, 145-154. (金子書房)。「母親の役割の変遷」 発達, 1994, 15 (Winter), 1-9. (ミネルヴァ書房)。「慈しみ育む心はやさしさの根元」 ライフサイエンス, 1994, 21(5), 22-26. (生命科学振興会)。「子どもの発達と文化的・社会的情况」も近く現れる予定である: 小児看護, へるす出版。

(1994年9月30日)